審 査 の 結 果 の 要 旨

氏　名　小松崎 俊作

本論文は、医師の総合的診療能力の向上や、プライマリケアの充実、研修医の待遇の向上などを目的として、2004 年 4 月より必修化された新医師臨床研修制度が当初の目標を十分かつ効果的に達成しているか、制度導入の目的そのものは患者を含めた医療の現状から見て適切なものであるか、また新研修制度導入に伴って社会全体にどのような意図せざる影響が表れているのかについて分析し、新研修制度が最終的に望ましい医療・社会を実現することにつながるのかという観点から多元的に評価を行ったものである。多元的政策評価の手法構築に当たっては、ポスト経験主義的観点から Fischer（2003）が設計した多元的政策フレームワークを参考にし、コンテクストレベル（医療現場）と社会全体レベルの二段階において、それぞれ定量的・定性的評価を実施している。

コンテクストレベルの評価対象には岡山県の 2 つの大病院を選択し、研修目標の達成状況や予算に関する定量的データを収集するとともに、研修医・指導医・看護師・薬剤師・事務といった医療従事者に対するインタビュー調査を実施し、政策目標である研修医の総合的診療能力や待遇の向上は十分達成されていると評価した。また、定性的評価では、医師の専門性や専門家としての自由、研修医のモチベーション・自由度の向上、学習への専念という観点から状況が改善されていると評価した。

社会全体レベルの評価においては、まず新医師臨床研修制度の導入によって社会全体にどのような影響が及ぼされているかを因果関係図の形で明示し、因果関係それぞれについて検証を行った結果、新制度導入前から地方を中心に医局の弱体化は進みつつあったが、2000 年代前半に立て続けに実施された DPC 導入、国立大学法人化、そして特に新医師臨床研修制度（マッチング）が引き金となって、医局による医師の引き上げが発生したこと、その結果残された医師の負担が増加して、自ら医師を確保できない地方の総合病院（特に医局からの派遣に頼っていた公的病院）において診療制限・閉鎖・医師不足が起こったことを明らかにしている。一方で、社会保障費の圧縮政策や地方自治体の財政悪化によって、元々地域医療には過度の負担がかかっていたことも今日の医師不足問題の遠因となっていると考えられること、戦後からの平等主義的医療政策による医師の「薄く広い」配置や、近年の医療の専門化・高

度化、90 年代以降に医療事故が社会問題化したことなども歴史的な背景要因と考えられることを指摘している。

また、生じているのは単なる医師不足ではなく「医師の地域別・施設別偏在」であること、大病院は急激に医師を増やしているのに対して地域医療を担ってきた公的中小病院における医師不足が問題となっていることを明らかにしている。

さらに、スーパーローテートは、診療科別の医師偏在の主要因となっているとは考えにくいこと、診療科別医師偏在は以前からの実働医師減少に起因しており、その要因としては、診療リスクの増大や、（マッチングによって加速された）医師の引き上げが考えられることを示している。

社会的選択における「望ましい医療システム」を検討し、以上のような社会的影響を含めた評価を行い、以下のような結論を得ている。新医師臨床研修制度は、確かにスーパーローテートによる総合的診療能力の向上によって、「平等」かつ「医師の公的性格」方向へと医療システムを変化させるものであり、この点では国民にとっても「望ましい」政策であったと評価されるが、マッチングシステムの導入によって、地域別・診療科別の医師偏在という帰結を招いたことで、結果的には平等性と医師の公的性格を損なってしまった。スーパーローテートは「望ましい」政策であり、コンテクストレベルでも総合的診療能力の向上という目標は一定程度達成されただけでなく、現場のステークホルダーも医師の技量・専門性などの価値に基づいて新制度下の研修プログラムを是認していた。

より長期的な視点では、新制度の導入がひとつのトリガーとなって医局制度が崩壊し、結果として医師の流動化が実現したことに大きな意義が認められる。医師の流動化によってこれまでとは違い自律的な医師配置が行われる可能性が生じた。このことは、高齢化の進展や医療費の増加といった制約条件の下で、安全性の高い医療を実現するために必要な、たとえば大病院と中小病院との間で一定の機能分担を行うことや、資源の集中を可能にする可能性が考えられる。

以上のように、本論文では新医師臨床研修制度が当初の目標を達成しているか、制度導入の目的が適切なものであるか、また新研修制度導入に伴って社会全体にどのような影響が表れているのかを分析し、新研修制度が望ましい医療・社会を実現することにつながっているのかという観点から評価を行った。明らかにされた新医師臨床研修制度の影響と、その評価結果は、今後の医療政策の立案に対して有益な知見を与えるものである。さらに、コンテクストレベルと社会全体レベルの二段階において、それぞれ定量的・定性的評価を行う評価手法の有用性が示された。この評価手法は医療以外の分野における政策評価に利用することができるものと考えられる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。